

やまなしの
偉人たち
⑨

白磁の人 浅川

巧

1891-
1931



日本と朝鮮の懸け橋となった
現在の北杜市出身の林業技師 浅川巧^{たくみ}。
若くして植民地下の朝鮮半島に渡り
朝鮮文化をこよなく愛し、朝鮮の人々にも
愛された日本人であった。

林業技師として出発した青年

浅川巧は明治24(1891)年、八ヶ岳を望む北巨摩郡甲村(現在の北杜市高根町)に浅川如作の次男として生まれた。浅川家は染め物屋を兼ねた豊かな農家であったが、厳しい風土での暮らしは決して楽ではなかった。明治末、県下を立て続けに襲った大水害を目の当たりにした若き巧は、自然の営みを学び



伯教に学んだ韓国陶芸界の巨匠・池順鐸氏の白磁無地壺(浅川伯教・巧兄弟資料館蔵)

疲弊した国土の緑化を志す。

兄・伯教とともに甲府に下宿し、県立農林学校を卒業。林業技師として秋田県大館^{おおだて}営林署で働きながら、巧の関心はやがて広い東アジアに向かつていく。大正3(1914)年に、巧は兄を慕って朝鮮半島に渡り、朝鮮総督府農商工部山林課に職を得、じかに朝鮮半島の風土と文化に触れることになる。

民芸運動と朝鮮文化との出会い

巧の美意識は、彼が生まれた故郷の風土と兄・伯教による教え、「民芸運動」の創始者・柳宗悦^{やなぎむねよし}に感化されたことが大きい。伯教は、教員をしながら白樺派の文学に心惹かれ、自らも絵や彫刻を制作。近代西洋の息吹を巧に伝えた。そして柳宗悦との出会い。柳の「民芸運動」は、暮らしに根ざしたおらかな民衆の美を再評価する運動で、山梨に何度か足を運び浅川兄弟と懇意になっている。

朝鮮半島に渡った巧は、全土をくまなく歩き、伐採により荒廃した山野の緑化事業に取り組みながら、次第に

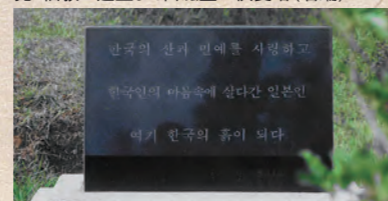
朝鮮の文化に惹かれていく。兄と共に朝鮮古窯の窯跡の調査、木工芸品や白磁など陶磁器の収集にも心血を注いだ。朝鮮の人と同じ立場でその文化を愛する巧の姿勢は、多くの朝鮮の人々に感銘を与えた。そして彼の抜きんできた朝鮮文化への見識は、「民芸運動」の展開にも大きな影響を与えていく。

白磁のような無垢な心

巧は、柳と伯教と共に、朝鮮の景福宮^{キョフククワン}に念願の「朝鮮民族美術館」を設立。朝鮮文化の研究に没頭し、その成果を著書『朝鮮の膳』『朝鮮陶磁名考』に残すが、昭和6(1931)年、急性肺炎のため40歳の若さで急逝する。



現在はソウル郊外の志愛里公園墓地にある浅川巧の墓(中央) 兄・伯教が建立した白磁壺の供養塔(右端)



韓国林業試験場職員一同が建立した追墓碑

自身が愛した白磁のような無垢な心で、朝鮮の人々と接した巧。京城^{キョウシン}の里門里^{イムンリ}の墓地に朝鮮の人々により手厚く葬られた。慕われた人格と業績は高く評価され、追墓碑には「韓国の山と民芸を愛し、韓国人の心の中に生きた日本人、ここ韓国の土となる」と刻まれている。



道-白磁の人- 6月9日から全国ロードショー

白磁の人 検索 上映劇場や期間など詳しくは映画公式サイトでご確認ください。

北杜市での上映会日程

- 高根ふれあい交流ホール 7月8日(日)午後6時30分~
- 須玉ふれあい館ホール 7月21日(土)午後2時~ 午後6時30分~ (2回上映)
- 当日券 一般1,800円 大学生・専門学校生1,500円 高校生以下1,000円 ※協賛前売券(1,000円)利用可
- 問い合わせ先 浅川伯教・巧兄弟資料館 TEL 0551-42-1447



浅川伯教・巧兄弟資料館

北杜市高根町山村北割3315 TEL 0551-42-1447

現在の北杜市で生まれ、朝鮮工芸の美に惹かれ、世界に伝えた浅川伯教・巧兄弟の業績を伝える資料を展示。日本植民地下の朝鮮、伝統的な磁器、木工芸などとともに「朝鮮陶磁史の研究に先駆的に取り組んだ兄」と「朝鮮の山野と民衆を愛し民芸を再発見した弟」の生涯を紹介している。



巧の生涯を描いた映画「道-白磁の人-」の完成披露試写会(中央は主演の吉沢悠さん)